

議院議員

殿

特定秘密の保護に関する法律案 および TPP(環太平洋経済連携協定) 交渉に反対することを求める嘆願書

氏名 伊藤泰子

住所 埼玉県大里郡寄居町

電話

要旨

1. 憲法の定めた基本的人権に反する、特定秘密の保護に関する法律案には、強く反対し、秋の臨時国会での採決時に反対票を投じてくださるようお願い申し上げます。
2. 現在進行中の TPP 交渉は、国民の利益を損ねるものです。衆参両議院の農林水産委員会決議、および、自民党の「TPP において守るべき国益」に反するものですので、国会批准の際に、反対票を投じてくださるようお願い申し上げます。

理由

私は、以前より TPP について疑問を持っており、4月からは「いやだね！TPP 寄居町連絡会」の一員として、地域の仲間と TPP について学んできました。同会は、6月に「誰のため・何のための TPP～安部芳裕さん講演会」を開催し、JA ぶかやの後援も得て、多くの参加者と TPP 反対の思いを共有しました。JA ぶかやの専務理事からは、総代会における TPP 反対の決議も読み上げられました。その後も、JA ぶかや主催の講演会をはじめ、様々な活動で、TPP の内実を知り、何としても TPP はストップしなければならない、との確信を持った次第です。

その後、ブルネイ交渉において交渉官が「ISD 条項」を自ら提起したことには、驚愕しました。単なる外務省官僚が、国の最高決議機関である国会での決議を、軽々と踏みじったのですから。どうして、全国会議員が抗議しないのか不思議です。また、先日の、自民党西川 TPP 対策委員長の、聖域品目の関税撤廃について、細目への影響を検討する、という発言も同様で、国会決議および、昨年衆議院選挙以来の自民党の公約（J ファイル含む）での約束を覆すものとして、多くの農業者及び国民の怒りを買ったことは、当然だと思います。

とにかく、国の先行きを左右する重大な国際協定であるにもかかわらず、国民の負託を受けた国会議員すら、その内容を知ることができない、異常な秘密の協定であることからして、このままでは、まったく受け入れることはできないと思います。特に、国や地方自治体が国民や自国産業や環境を守るためにこれまで積み上げてきた制度や規制を、多国籍企業や投資家の利益のために改変させるような力を持つ、ISD 条項の導入の危険性があるのならば、TPP 交渉からの脱退をめざして、国民のために闘っていただきたいと願います。そのような TPP に参加すれば、企業の利益が最優先され、民主的な意思決定は難しくなり、代議制民主主義が形骸化してしまいます。地域産業も多大な影響を受けるでしょう。

この TPP のような重大な国家的な課題が、まったく秘密裏に処理されていくことに、多くの国民が抗議の声をあげています。1000万を超える反対署名や、2000の地方自治体の反対決議があるのですから、本来は、交渉参加の際に、内容を納得が得られるまで説明する責任があったはずですが。

上記のような TPP 交渉に関しての、民主主義・国民主権に対しての異常事態が、今まさに、特定秘密保護についての法案の成立で、恒久化しようとしています。私たちの命と暮らしに深くかかわる、TPP も、原発関連の情報も、国の安全保障に関わることとして、「特定秘密」に指定されるおそれがあります。また、この「特定秘密」を保護することを理由に、国民の基本的人権が大きく侵され、息苦しい官僚・警察支配国家に道を開く危険が大きいのです。私たちが選んだ、国会議員さえ、この「特定秘密」の前では、無力になってしまいます。

10月15日より開催の臨時国会以降、議員の政治姿勢を、地元有権者として、見守らせていただきたいと願います。長々とお読みいただきありがとうございました。